

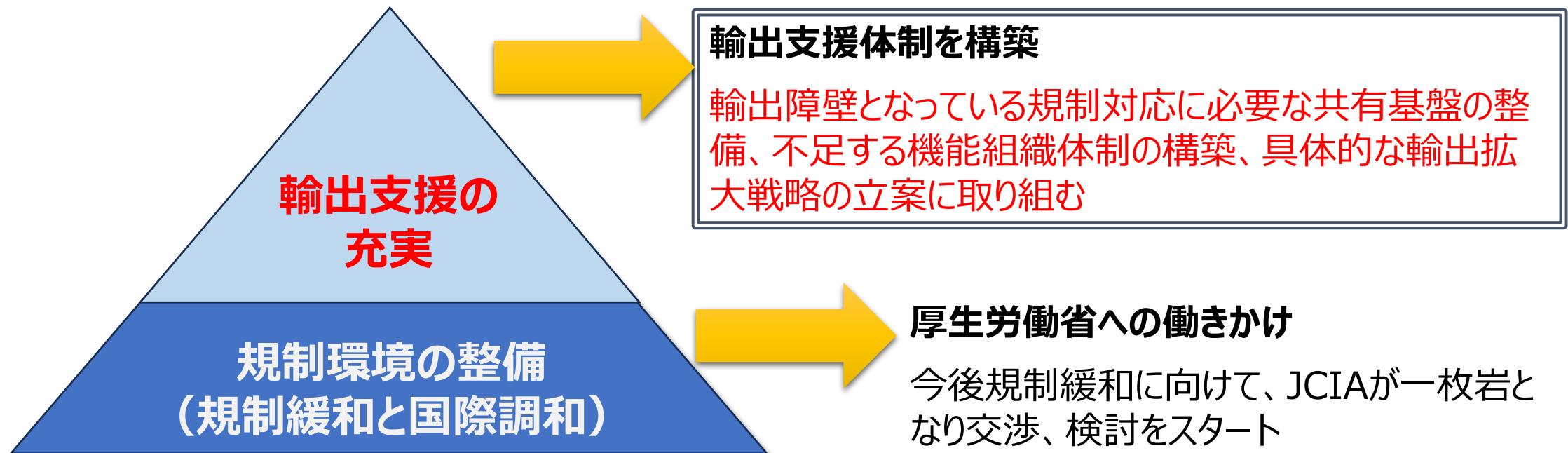
JCIA各委員会との連携を 構想中の輸出支援について

2026/1/8
日本化粧品工業会産業政策委員会

日本の化粧品産業の国際競争力を高め、国際市場への輸出を拡大する

KPI: 輸出 0.8兆円（2022）→2兆円（2033）*

*内閣府知的財産戦略本部 R6 新たなクールジャパン戦略より
クールジャパン関連産業：19.1兆円（2023）→50兆円（2033）
化粧品産業：0.8兆円（2022）へ外挿すると、2兆円（2033）



1. 海外の規制に関する知見、ノウハウ、リソースの不足

規制に関する支援

- 1) 最新の海外規制の入手が困難
- 2) 海外規制に対応するためのリソース不足

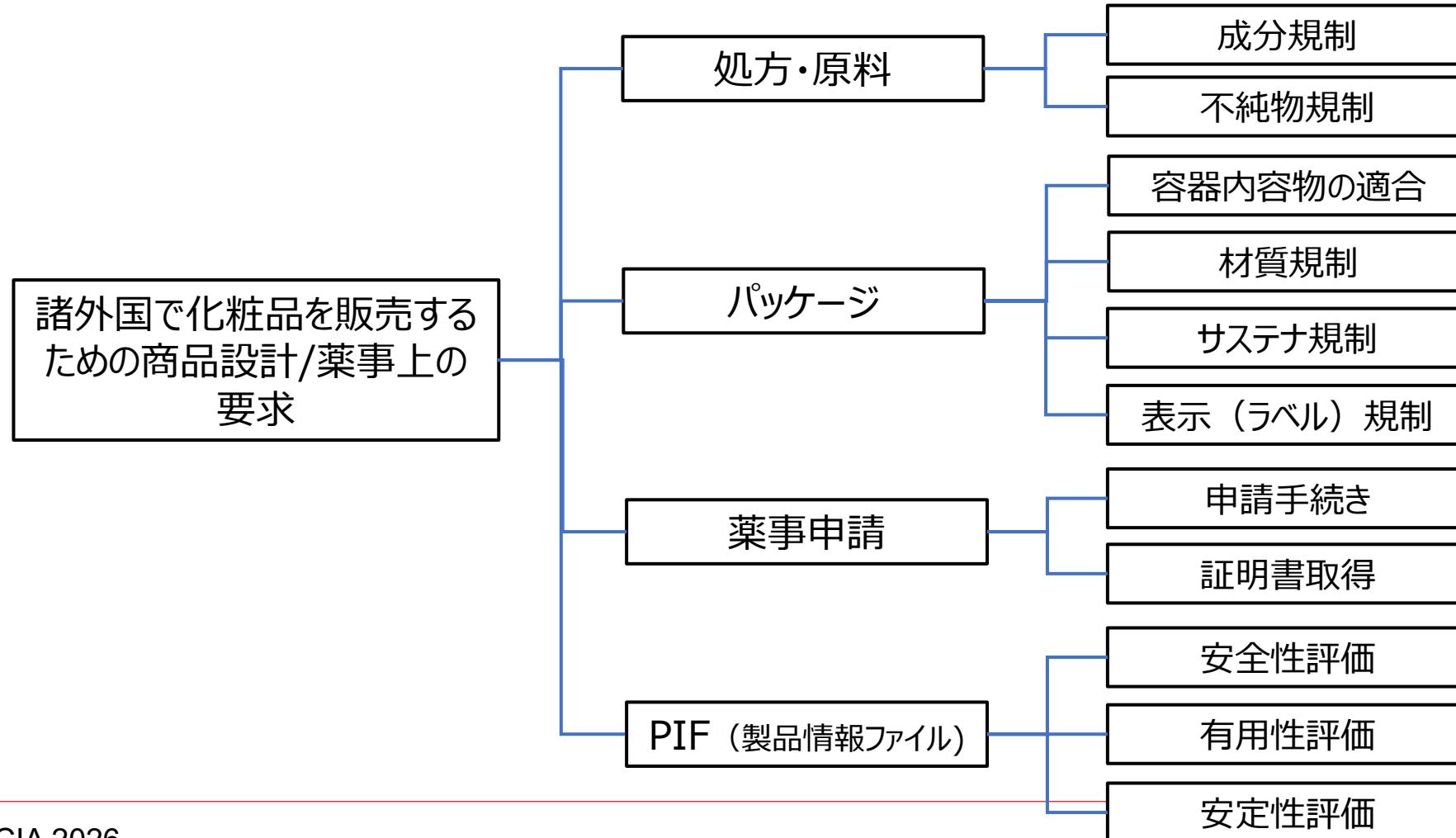
2. 海外展開するためのビジネスノウハウやコネクション不足

ビジネス上の支援

- 1) 対象国の市場に対する理解不足
- 2) 新規参入のサポート不足（サプライチェーン～バリューチェーン）

JCIAとして、化粧品産業競争力強化検討会（経済産業省）と連携を深めながら輸出拡大に向けた施策を検討しています

「輸出拡大」の障壁となる商品設計（処方・表示・包材・品質）と薬事（各国規制対応）の対応について、情報の共有基盤構築とサポート体制の強化を各委員会にて検討中



日本の化粧品産業が国際整合性を確保し、輸出競争力を高めるための実効的なデータ基盤の構築が必要であり、国際委員会との連携を中心としながらもJCIA単独構築ではなく、中長期的に政府・業界・海外機関間の連携を模索していく。

1. グローバル規制情報の提供基盤の強化

各国当局が公開している規制情報をタイムリーに収集、収集した情報の整備、提供環境を強化し、各規制へのアクセシビリティー向上を並走させる

各国の関係省庁、工業会との連動による効率管理も視野に入る

2. 輸出産業支援WG（仮）立ち上げに向けた議論をスタート

業界全体の海外輸出に関わる競争力の底上げを視野に、現在進行中の国際委員会、各部会の取り組みの発展形としてのWG立ち上げに向けた議論をスタート

規制情報提供に留まらず、ソリューションに繋がるサポート体制、システム構築について議論をスタートする

1. グローバル規制情報の提供基盤の強化

各国当局が公開している規制情報の整備、提供を強化し、AIツール等の活用による規制へのアクセシビリティー向上を目指す。

AIツール活用イメージ



各国行政規制

2025/06/19 · 6 個のソース

⋮



台湾 化粧品衛生安全管理規定

2025/06/16 · 96 個のソース



⋮



中国化粧品規制条例&細則

2025/06/13 · 10 個のソース



⋮



Korea Ministry of Food and Drug Safety

2025/08/25 · 2 個のソース

⋮



米国 MoCRA

2025/06/19 · 38 個のソース

⋮



米国行政各州情報

2025/06/11 · 9 個のソース



⋮



EU Cosmetic Regulation (CPR)...

2025/11/28 · 3 個のソース

⋮

グローバル規制において、EUのみならず中国、台湾、ASEAN（一部）においてPIF制度への適用（Product Information File：製品情報ファイル）を要求している。

技術委員会ではPIFの技術要件のフレームを策定するためのTFを組織しており、技術委員会と連携し、輸出における薬事上の要求項目の整備、対応体制構築のためのガイドラインを整備していく。

1. PIFに関する情報を整備するTFを設置

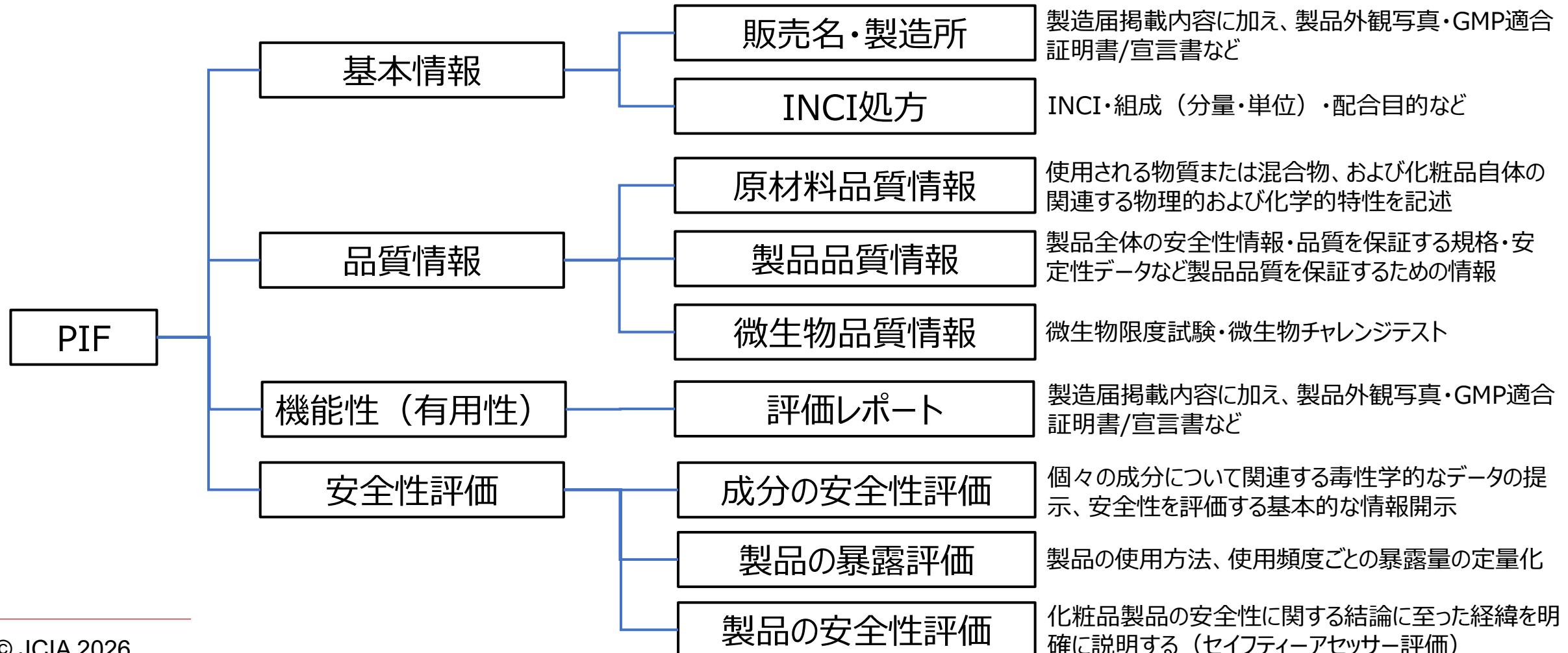
諸外国で一般的にPIFのコンテンツとして要求されている項目をフレームワークとして提示予定
加えて主な項目について、作成の基本的な考え方を整理し、ガイドラインとしての発行を検討

2. 既存活動の整理

原料情報整備WGの活動などをPIFの視点から整理

1. PIFのコンテンツとして要求される項目の考え方

諸外国で一般的にPIFのコンテンツとして要求されている項目をフレームワークとして提示予定
また主な項目について作成の基本的な考え方を整理しガイドラインとしての発行を検討中



項目	求められる情報	説明
原材料品質情報	SDS	原料の安全性情報を記載した文書 化学的危険性、取り扱い上の注意、応急処置情報など
	化学的・物理的性質	化学的特性、物理的形態、不純物の情報など
	原料規格	原料の品質を保証するための規格書
	原料CoA	原料の分析証明書
	由来	原料の出所や原産材料情報
	香料アレルゲン	香料メーカーより提供されるアレルゲン含有情報
	IFRA適合証明	香料メーカーより提供される安全性基準の適合情報
	サプライヤー情報	サプライヤーの名称、住所等の情報

諸外国で化粧品を販売するためには、各成分の海外法規への適合だけでなく、各原料における安全性に関する情報の提示が求められるため、成分規制DBの構築により輸出障壁低減を目指す。

1. 成分規制DBの整備

各成分の海外法規への適合可否ならびに安全性情報について、韓国における先行事例も参考にしつつ広く業界企業が利活用できる成分規制DBの検討を開始

今後、官民連携、関連業界、JCIA各委員会との連携により成分DBの構築を検討する

1. 各国の成分規制DBの整備

独自DB構築には高額な更新・維持コストが必要になるので、官民、海外連携、関連業界との連携を視野に、日本化粧品業界として不足する安全性情報等の補完を目指す



独自DB構築には高額な更新・維持コストが必要になるので、官民、海外連携、関連業界との連携を視野に、日本化粧品業界として不足する安全性情報等の補完を目指す

観点	JCIA独自構築	既存海外DB活用（例：韓国）
主導権	高い	低い（外部仕様依存）
更新性	遅れリスク（人手）	高い（週次～月次更新）
コスト	高（構築・維持）	低（契約・翻訳層）
国際整合性	国内準拠	高（INCI・SCCS対応）
政策活用	出典明確で強い	ソース非公開リスク

韓国における成分DB公開サイト

産業政策委員会では、ビジネス基盤となる規制環境を整備し、さらに輸出支援を充実させることで日本化粧品工業会ビジョン2030の一つである「世界で存在感のある化粧品産業」を実現させるべく、関係省庁と連携し活動してきました。

この度、業界内の課題をより詳細に捉え、今後の施策を検討するにあたり、会員企業の皆さまの実態を把握し、より施策精度を向上することを目的として、アンケートを実施することといたしました。

アンケートの集計結果は官民双方で活用する予定です。

この機会にぜひ皆様からの忌憚ないご意見を多数賜りますようお願い申し上げます。

回答はオンラインのみとしますが、貴社内でそれぞれの設問に関連する部門から回答いただき、オンラインアンケートと同じ内容のエクセルを添付いたします。関連部門からの回答をあらかじめ集約いただいた上でオンライン回答してくださいますよう、お願い申し上げます。

調査票は1月13日(火)に会員(正会員、原料部会員)各社の「窓口担当者」へ送付いたします。

1月30日(金)17:00までにご回答くださいますよう、お願い申し上げます。